

## 平成 23 年平均消費者物価地域差指数

### 概 況

地域間の物価水準差を測る平成 23 年平均の消費者物価地域差指数(51 市<sup>注</sup>)平均＝100)を都道府県庁所在市別にみると、総合指数(持家の帰属家賃を除く)では、横浜市が 107.1 と最も高く、次いで東京都区部が 106.3、金沢市が 102.9、長崎市が 102.6、さいたま市が 102.3 などとなっている。一方、最も低いのは宮崎市の 96.7 で、次いで前橋市が 97.0、秋田市及び奈良市が共に 97.3、福岡市及び佐賀市が共に 97.4 などとなっている。なお、横浜市は宮崎市に比べ 10.8%高くなっている。

大分市は 97.8 で、全国の都道府県庁所在市のうち 38 番目となり、横浜市に比べ 8.7%低くなっている。

九州各県の県庁所在市をみると、長崎市 102.6 (4 番目)、熊本市 100.1 (18 番目)、鹿児島市 100.0 (20 番目)、那覇市 99.7 (22 番目)、福岡市 97.4 (42 番目)、佐賀市 97.4 (42 番目)、宮崎市 96.7 (47 番目) となっている。

また、食料指数でみると、大分市は 99.1 で、全国の都道府県庁所在市のうち 25 番目となり、最も高い東京都区部の 106.0 に比べ 6.5%低くなっている。

注) 51 市とは都道府県庁所在市(東京都については東京都区部)及び政令指定都市(川崎市、浜松市、堺市及び北九州市)のことである。

